令和元年度　標準的学力調査の結果（ＨＰ版）

学校支援課

令和２年１月に実施した標準的学力調査（東京書籍版ＣＲＴ）の結果をお知らせします。

１　各教科の平均正答率（％）について

【中学校２年生・理科】※標準スコア…全国の平均正答率を５０としたときの換算値

年度	新潟市	全国	全国との差	標準スコア
令和 元 年度	**５４．２**	**５６．３**	**－２．１**	**４９．０**
平成３０年度	５６．４	５７．４	－１．０	４９．６
平成２９年度	５４．２	５５．４	－１．２	４９．４

【中学校２年生・英語】※標準スコア…全国の平均正答率を５０としたときの換算値

年度	新潟市	全国	全国との差	標準スコア
令和 元 年度	**５７．２**	**５５．４**	**＋１．８**	**５０．８**
平成３０年度	５５．９	５５．５	＋０．４	５０．２
平成２９年度	６１．０	６２．１	－１．１	４９．５

２　中学校２年生・理科の概要について

【領域別等の平均正答率】

標準スコアは，４９．０（昨年度４９．６）と全国平均とほぼ同程度であった。

「基礎」の正答率は，全国平均を－１．７（昨年度－１．１）下回り，「活用」の正答率は，全国平均を－３．０（昨年度＋０．９）下回っていた。

領域別に正答率を全国平均と比較すると，「エネルギー」領域は－６．７（昨年度－０．９）と大きく下回り，「粒子」領域は＋０．５（昨年度－０．９）と少し上回った。また，「生命」領域は－２．８（昨年度＋０．５）と大きく下回っていた。なお，「地球」領域は，まだ未履修のため調査対象より除外してある。

今回の調査から，昨年度と同様に，微視的，抽象的な事象を扱う「エネルギー」領域の定着に課題があることが明らかになった。また，実生活の事象について，習得した知識・技能を活用させて解決する方法を思考・判断したり，観察・実験方法の意図や結果を分析し，解釈したことを表現したりすることを苦手としている。

【内容ごとの状況】

＜○…全国平均を上回った主な問題　　●…全国平均を下回った主な問題＞

- ●　炭酸ナトリウムが炭酸水素ナトリウムと違う物質であることを確かめることができる。
- ○　カルメ焼きをつくるとき，炭酸水素ナトリウムが気体を発生することを考えることができる。
- ○　銅の質量と加熱後の物質の質量の関係をグラフに表すことができる。
- ●　銅と酸素が化合する質量比を考えることができる。
- ○　２種類以上の物質が混ざり合っている物質を，「混合物」ということを理解している。
- ●　形やはたらきが同じ細胞が集まってつくるものを「組織」ということを理解している。
- ●　デンプンやタンパク質を消化する消化液を理解している。
- ○　背骨をもつ動物を，「セキツイ動物」ということを理解している。
- ○　まとめから，イモリが両生類に分類されることを考えることができる。
- ○　カニが甲殻類に，イカが軟体動物に分類されることを理解している。
- ●　複数人で記録をし，平均をすることの意味を考えることができる。
- ●　気体検知管を使って空気中の酸素を肺に取り入れていることを調べる実験を説明できる。
- ○　回路全体の抵抗の大きさを求める式を理解している。
- ●　電熱線の消費電力を求める式を理解している。

【今後の対応】

◎ 既習の知識・技能や習得した内容を関連付けて，構造化できるような学習を意図的に設定する。（基礎を定着させるために）

◎ 基礎事項については，単元や内容のまとまりの学習後に習得した内容をレポートにまとめる活動などを位置付ける。（表現力を育成するために）

◎ 科学的に探究する過程を大切にした授業を心掛ける。（思考力・判断力を伸ばすために）

実生活の事象から問いを見いだし，見通しをもって課題や仮説を設定し，観察・実験などを行い，根拠に基づく結論を導き出す過程を大切にした授業を心掛け，科学的に探究するために必要な資質・能力を育めるようにする。

◎ 理科を学ぶ意義や喜びを実感できる授業を心掛ける。（学ぶ意欲を高めるために）

理科で習得した知識・技能が生活場面でどのように利用されているのか，身近な自然事象がどのようなしくみになっているのかを解決する学習を行い，単元や内容のまとまりの終末で振り返りを行うことで，自己の成長や学ぶ喜びを自覚させ，次への学びに向かう意欲を高められるようにする。

３　中学校２年生・英語の概要について

【領域別等の平均正答率】

市全体の状況は，基礎・活用ともに全国平均を上回った。「基礎」が全国平均より２．０ポイント，「活用」が１．４ポイント上回った。

領域別に正答率を全国平均と比較すると，「聞くこと」の領域は－０．２（昨年度－１．１），「読むこと」の領域は＋４．４（昨年度＋３．０），「書くこと」の領域は＋１．０ポイント（昨年度－０．８）だった。特に，「読むこと」の領域は，昨年度同様に高い数値だった。「書くこと」については昨年度から改善がみられ，今年度は全国平均を上回った。一方，「聞くこと」については昨年度より改善しているものの，全国平均を下回り，依然課題が残っている。

観点別では，「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」において，全国平均を上回った。特に「言語や文化についての知識・理解」については，＋３．１ポイント上回り，高い数値だった。

【内容ごとの状況】※〈目標値〉…出題者が設問ごとに正答できると期待した正答率の値

＜○…市の平均正答率が〈目標値〉と〈全国平均正答率〉の両方を上回った問題＞
＜●…市の平均正答率が〈目標値〉と〈全国平均正答率〉の両方を下回った問題＞
※網掛け…〈目標値〉と〈全国正答率〉の両方について５ポイント以上高い（低い）

「聞くこと」

○　絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。（していること）
○　対話の内容を聞き取り，適切に応答することができる。
（カバンの中に何があるのかたずねられて）
●　対話の内容を聞き取り，資料をもとに英語で答えることができる。
※　昨年度と同様に低かった問題

「読むこと」

○　語形・語法を理解することができる。（依頼を表す Can you ～?の文）
○　語形・語法を理解することができる。（疑問詞 which）
○　語形・語法を理解することができる。（There is[are]～.の過去の文）
○　語形・語法を理解することができる。（副詞的用法の不定詞）
○　英文の情報を読み取り，適切な絵を選ぶことができる。
○　対話の流れと資料の情報・条件をもとに，適切なものを選ぶことができる。
○　対話の流れと資料から，適切な名詞を判断することができる。
○　対話の流れと資料から，登場人物の適切な発言を判断することができる。
○　指示語（him）の指す内容を把握することができる。
○　スピーチの内容を把握することができる。
●　読み取った内容を踏まえて，メールの中の適切な語を書くことができる。

「書くこと」

○　単語を正しく書くことができる。（すぐに）
○　単語を正しく書くことができる。（与える）
○　英文を正しい語順で書くことができる。(疑問詞 where を使った，be 動詞の過去の疑問文)
○　英文を正しい語順で書くことができる。（think＋that 節の否定文）
○　英文を正しい語順で書くことができる。（名詞的用法の不定詞の疑問文）
●　単語を正しく書くことができる。（言語）
●　単語を正しく書くことができる。（晴れた）
●　３年生になったらしたいことについて，まとまった内容で説明する文を書き表すことができる。

【今後の対応について】

◎「聞くこと」の力を育成するための言語統合的な活動の設定。

「聞くこと」はここ数年にわたって，当市の課題となっている。昨年度から改善は見られ，目標値を上回ったものの，全国平均正答率を０．２ポイント下回った。

「聞くこと」の問題で特に正答率が低かった問題は，「対話の内容を聞き取り，資料をもとに英語で答える」問題だった。

新学習指導要領においては，聞いたこと，読んだことをもとに，話したり，書いたりするような言語統合的な活動が重視されている。今年度初めて行われた全国学力・学習状況調査における英語のテストでも，同様の問題形式が出題された。

普段の授業において，「聞くこと」を通して得た情報を活用し，話したり書いたりする活動を設定する必要がある。そのためには，２人のやり取りを聞いて，どのような誕生日プレゼントを贈るべきかについて，仲間とやり取りをするといったように，聞く目的を明確にした活動を設定する必要がある。